



男子・山下大介(長崎国際大)が逆転で初優勝 女子・東 葵(熊本県立大)が2連覇達成



初優勝の山下大介(左)と連覇の東葵(右)



最終日は7日、長崎県大村市の大村湾カントリー倶楽部ニューコース((男子 6827 ㌦、女子 5943 ㌦=パー72))で行われ、男子は地元、長崎国際大4年の山下大介が通算イーブンパー、144 で初優勝。女子は東葵(熊本県立大3年)が通算8オーバー、152 で2年連続優勝した。

山下は長崎県勢初の優勝で、東の連覇は2005、2006年に達成した青山加織(当時九州東海大、現プロ)以来2人目の連続優勝。山下、東は九州学生選手権優勝で第66回日本学生選手権(男子8月21~24日、女子22~24日・埼玉県狭山GC)への出場権を手にした。

難グリーンに苦戦 アンダーパーは2日間で2人だけ

曇りで気温24.6度、西南西の風4m(午後1時現在)と好コンディション。特有のグリーンの難しさに選手はスコアメイクに苦しんだ。アンダーパーをマークしたのはこの日も1人だけだった。

最終日最終組の3人は長崎国際大勢。その中で、山下は首位の境翔吾(同大学3年)に2打差の2位タイ、72でのスタート。前半、1打縮めての後半。境とのマッチレース模様となったが、首位タイで迎えた18番で、パーの山下に対して境が3パットのボギーとし、逆転1打差をつけて勝利を引き寄せた。

2位タイは境と、この日ベストスコアの71をマークして6位から浮上した木村健吾(東海大九州2年)の2人。さらに1打差、4位にこの日73のスコアの今村勇貴(日本経済大2年)。連覇を狙った柴田求仁貴(同3年)は6位に終わった。

女子は東が2位の比嘉奈津美(名桜大1年)に5打差をつけての最終日だったが、ショットが不調で一時は並ばれたものの、8番(パー4)で比嘉が5パットのトリプルとし、辛うじて逃げ切った。



山下大介 「持ち味は粘り」 我慢のゴルフでつかんだ栄冠

「地元開催だし、このタイトルを取るのを目標にしていた。うれしい」。GUK主催のこの競技は、年間8試合ほどある学連の試合の中で、最大のタイトル。自身にとって初めての公式競技での優勝に、山下大介は口元をほころばせた。

初日はパープレーで後輩に2打差をつけられた。しかし、焦りはなかったと山下は言う。前日のホールアウト後、コース管理によってグリーンにローラーがかけられているのを見た。「元々変化があって手ごわいグリーン。最終日はさらにグリーン



面の硬さも、ピンの位置も難易度を上げる」と

判断した山下は、「相手を見ずに自分のゴルフに徹すること。パープレーで回れば」を目標に掲げた。

予想通り、一筋縄ではいかないグリーンだった。「3～4mが入らず、パットに泣かされた」とはいうものの、他の選手が3パット続出という中で、3ボギーにとどめ、目標を達成したのは立派だ。

今季は先の九州アマチュア選手権で12位タイになり、日本アマチュア選手権への出場権も手にしている。今年はこれまで、「順調な競技生活」と笑顔を見せ、来週の九州オープンも「ベストアマを狙って」と抱負を口にした。

長崎出身。長崎明誠高から同大学に進学。身長165センチ、体重68キロと小柄だが、ドライバーの平均飛距離は270ヤード。オフには「走る事を基本に体作りをやってきた」と言い、最大の「売り、は聞くと、「粘り強さです」と。いずれはプロへの道に挑戦する予定だという。



連覇にも反省しきりの東葵

5打差の貯金があつという間になくなり、一時は比嘉奈津美に並ばれた東。インからのスタートで最終盤の8番4段グリーンで比嘉が7mから何と、5パットしてトリプルボギー。自分も同じ位置から3パットのボギーとしたが、「3パットですんだ」という結末にホッと胸をなでおろす一方、「自分のゴルフができなかった」と反省しきりだった。

大学では部活動ではなく、個人的に取り組んでいるゴルフ。普段から励ましあい、競争する相手がいないというハンディはあるが、結局はゴルフは自分との戦い。実力、精神力ともに「まだまだ」という思いもあるのだろう。連覇を達成したというのにも、「素直に喜べないゴルフでした」と顔をしかめる。

この後は、日本学生選手権。「もっと厳しい練習をして、全国でも結果を残したい」と東だった。 (Kiku)





「まだまだ未熟です」と境翔吾

○…首位発進も2位タイの境翔吾 まだまだ未熟です。(最終ホールでの3パットボギーは)バーディー狙いでいったの結果。勝ちたいという思いが強すぎたのかな…。けど、大会を振り返っては、焦らずに自分のゴルフもできるようになり、自信ができました。



○…この日ただ1人のアンダーをマークして2位タイの木村健吾 4打差から追いつめたけど、あと一歩で取り逃がした。ピンの位置が難しかった。しかし、全体的には、自分のゴルフができたと思います。

○…連覇を逃した柴田求仁貴 スタートの1番で15メートルから打ちきれず、4パットのダブルボギー。出鼻をくじかれた格好で、ショット自体は良かったんですけど、あれでリズムに乗れなかった。悔しいです。

2位タイの木村健吾

「自分のゴルフはできた」と比嘉奈津美

○…いったんは首位に並ぶも、取り逃がした比嘉奈津美 私は東さんのマークではなかったから、結構自分のゴルフができていたと思う。8番の5パットがですねえ…もちろん初めての経験です。自己ベストの75を更新するのが目標でしたが、2日間70台のスコアが出たから、次の北海道での大学団体戦に気合を入れ直します。



2位の比嘉奈津美



男子は地元・長崎国際大の境翔吾が単独首位 女子は連覇を目指す東 葵(熊本県立大)が好発進



(C)GUK

単独首位に立った
境翔吾(上)と東葵(下)



(C)GUK

第1ラウンドが6日、行われ、男子は境翔吾(長崎国際大3年)が2アンダー、70で回り、単独トップに立った。女子は前年優勝の東葵(熊本県立大3年)がイーブンパー、72で首位に立ち、連覇へ向け好スタートを切った。

男子66人(欠場5人)、女子5人(同2人)が出場。晴れで気温26.2度、北の風3mと絶好のコンディションの中での選手権初日。開会式に続き、競技が実施された。

前年覇者の柴田求仁貴(日経大)は7位タイとやや出遅れ

大村湾CCニューコース特有の変化があって難しいグリーンに手こずる選手が続出。そんな中で、男子の境はこの日、前半2ボギーだったが、折り返してから4バーディーを奪い、ただ1人アンダーパーをマークした。境は先の九州アマチュア選手権では21位タイと善戦。2打差のイーブンパー、2位タイには中村宏樹(長崎国際大1年)と山下大介(同4年)の2人が並び、さらに1打差の1オーバー、73に今村勇貴(日本経済大2年)と永井貴之(九州大2年)の2人がつけ、前回優勝の柴田求仁貴(日本経済大3年)は3オーバー、75の7位タイとやや出遅れた。

女子は東が5バーディー、1ボギー、2ダブルボギーと苦戦しながらも2位比嘉奈津美(名桜大)に5打差をつけた。



(C)GUK

2打差2位タイの
中村宏樹

7日の最終日は午前8時、アウト、イン同時にティーオフ予定。



「あきらめないゴルフ」で単独首位の境翔吾

「今日は前半は我慢に我慢、耐えてしのいで、後半(のチャージ)につなげた」。全参加選手の中でただ1人、アンダーパーをマークして初日のリーダーになった境翔吾は、こうラウンドを振り返った。

イン・スタートの境。「グリーンが難しい」と選手たちが口をそろえる中で、「拾って、拾って」と前半はパーを重ねた。16、18番でボギーとしたものの、後半は2番(パー3)でグリーン左奥のバンカーからチップインのバーディー。「あれでリズムに

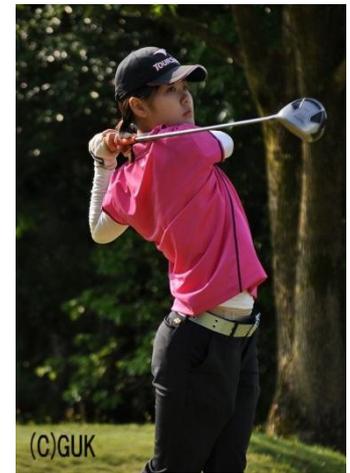
乗れた」と境だ。3、7、9番とバーディーを奪い、気分を良くしてのホールアウトだった。

中2の時、テレビゲームに刺激されてゴルフを始めたと言い、鹿児島県の樟南高から長崎国際大に進学した。しかし、これまではどちらかと言うと、鳴かず飛ばず。そんな境の発奮のきっかけになったのが、今年出場した九州アマチュア選手権だった。

優勝争いを繰り広げる高校生を中心としたジュニア勢。大学勢で健闘した1人、先輩の山下大介は日本アマヘコマを進めたが、自分は4打不足。「大学生の自分は何をしているんだ、もっと頑張らんと、と刺激された」そうだ。

学生選手権の開催コース、大村湾CCの協力で練習ラウンドも数多く重ね、攻略ルートを研究した。その結果が、この日、出たのだ。

最終日は「今日みたいにあきらめないゴルフをしたい。それが自分のゴルフの持ち味だから」と言う。将来はプロを目指しているという境。「公式戦のタイトルはぜひ取りたい」と言葉を強めた。(Kiku)



2位につけた比嘉奈津美

女子「連覇を目指す」東の敵は？

〇…「パットはそこそこ良かったけど、あとはショット」。女子トップの東は前半2オーバーの後、後半は4バーディー（1ダブルボギー）を奪いイーブンに。

「ここはグリーンが難しく、傾斜や段差がある。同じ面にボールを乗せないと苦労する」と言い、気が抜けないラウンドだったという。

加えて、女子参加選手が少なく、自分以外は全て名桜大（沖縄・名護）の選手。「初優勝した昨年とはまた違った緊張感があった」そうだ。

伏兵で九州女子学生選手権を制した昨年と比べてまたひと回り体が大きくなり、安定した感じ。5打差を持っての最終日。「連覇を目指します」という東に立ちはだかるのはだれか…。



「ただでは、走らせたくはない」 追撃の選手たち

〇…6バーディ、3ボギー、1トリプルボギーで2打差2位タイの中村宏樹 インスタートの11番でOBを出してトリプルボギー。あれが痛かった。けど、ドライバーがぶれていた中で、以後はよく耐えたと思う。明日は、翔吾先輩（境）に勝てば、勝ちも転がり込んでくると思う。

〇…首位に5打差の3オーバー、7位タイのディフェンディングチャンピオン、柴田求仁貴 ドライバーが不調で、バーディーチャンスが来なかった。パーでしのいでいたけど…。多いに不満が残る。けど、5打差は射程内。あきらめない。



7位タイ柴田求仁貴

〇…首位に5打差、77で2位、追撃の一番手の比嘉奈津美 ショットはフェアウエーを外さず、良かったけど、3パットが4回も。この後は、グリーンで練習します。差はあるけど、彼女（東）を走らせたくない。



平成 24 年度 (第 31 回) 九州学生選手権競技
(第 11 回) 九州女子学生選手権競技

競技報告・大会前日 (2012/06/05)

写真と記事：GUK

長崎・大村湾CCで6日開幕

連覇を狙う柴田求仁貴（日本経済大3年）と女子の東葵（熊本県立大3年）



戦いの舞台、
大村湾カントリー倶楽部ニューコース

前回3位の玉城幸弥（日本経済大3年）、同6位タイの町田尚陽（同）らが上位を争いそうだ。

女子は、優勝候補の一角にあげられていた前々回優勝の伊覇一希（日本経済大4年）が教育実習のために欠場となり、連覇を目指す東の独り舞台か。前回4位の中村詩織（名桜大2年）がどこまで絡んでくるか。

競技（第1R）はアウトが6日午前8時、インは同8時7分ティーオフの予定。

男、女の九州学生選手権競技が6～7日の2日間、長崎県大村市の大村湾カントリー倶楽部ニューコース（男子6827ヤード、女子5943ヤード＝パー72）で行われる。

競技には男子71人、女子7人がエントリー。2日間、全員の36ホールストロークプレーで実施。

前回は男子で柴田求仁貴（日本経済大3年）が通算イーブンパーの144で逆転初優勝。女子も東葵（熊本県立大3年）が最終ホールで逆転し、通算8オーバー、152で初優勝した。

男子はその柴田と、地元長崎の山下大介（長崎国際大4年）中心の優勝争いが予想される。先の九州アマチュア選手権では、柴田は4日間通算30オーバー、318の54位タイと低迷したが、山下は同10オーバー、298で12位タイに入り、日本アマへの出場権も手にした。

これに、九州アマ21位タイと健闘した境翔吾（同3年）や、



昨年の九州女子学生選手権から